

[クルマ修理の情報サイト]

repair-navi.com

リペアナビ

自動車修理の“？”に答えます！

愛車が突然動かなくなりました。どこが悪い？ どの修理工場へ行けばいい？
修理代はいくら？ 自動車修理って、けっこう分からないことだらけではないですか？
モーターマガジン社のリペアナビは、そんな疑問に答えるウェブサイト。ここでは掲載記事の一例を紹介します。



Close up
掲載記事

交換でも安心の リビルト部品 ラック& ピニオン

今やパワーステアリング(以下パワステ)ではないクルマを探すのが難しいくらい、パワステはかつて当たり前前の装備。動力方式には、油圧式、空気式、電動式の3タイプがあり、空気式はエアポンプを持つバスやトラックに、電動式は軽自動車や小型車に採用されることが多い。

そして、一番普及しているのが、ご存知、油圧式だ。油圧式、と言うからには当然オイルを介してパワステ機構に何らかのトラブルが発生すると、症状としてオイル漏れが起きるといふケースが多い。同じオイル漏れでも、配管からの漏れの場合は、早めに対応すれば部品代もそれほど高くないし、修理代全体も安く収まる。人間の病気と同じで早期発見が大事。エンジンルーム下にオイルの漏れ跡があったら、パワステ機構からのオイル漏れも疑った方がよいし、ハンドルが以前より重たくなったと感じるときなども要注意だ。

品だとパーツ代だけで10万円くらいする。輸入車では、車種にもよるが交換費用も含めると50万円を超えることもある。だが、高いからと言って、命にかかわるパーツだけに、放っておくわけにもいかない。

そこで利用したいのが、これまでも何度か紹介している「リビルト部品」だ。中古のステアリングギアを分解し、損傷していたり消耗している部品を交換して元どおりに組み上げ、新品と比べても遜色のない性能を発揮する中古部品をそのまま使うのとは、根本的に異なるのだ。価格的にも新品の半額以下で入手出来るし、ほとんどの場合、走行距離、期間などの保証も付いている。

今回取材したデルオートでは作業完了後にテストベンチで、シリンダー内の油圧を計測・チェックするなどして万全を期し、さらに走行距離無制限で1年間の保証もつけている。また、欧州車のリビルトを得意とし、ボッシュ(ZF L S 営業部)と契約を交わしているため、部品や技術情報をいち早く入手できるのも強みだ。

ここでは、8万kmの走行をこなし、サイドシールからオイル漏れを起こしているラック&ピニオン式ステアリングギアが、見事にリビルト品として復活するまでの過程を紹介しよう。



③ブーツを外すと、切れ目から入り込んだ水による錆が。



②サイドシールのブーツの切れ目からオイルが漏れ出している。



①8万kmの走行をこなしたラック&ピニオン式ステアリングギア。



⑥リビルト作業完了。見た目からして新品とほとんど変わらない。



⑤専用のテストベンチで油圧などの数値を計測して品質検査。



④分解。各部を念入りにチェックし、ダメージのある部品を交換。

■取材協力 (株)デルオート 世田谷工場TEL:03-3707-2841 厚木工場:TEL:046-221-7300

モーターマガジン社 eメディア事業部 TEL.03-3434-3159

リペアナビのホームページでより詳しい記事がご覧になれます。

【自動車修理工場の皆様】リペアナビに参加しませんか？ 詳しくはこちらのページをご覧ください。 <http://www.repair-navi.com/info/>

お問合せはリペアナビ営業センター：ラップ東京までお気軽にどうぞ！ TEL.042-349-3535 E-mail: guide@repair-navi.com